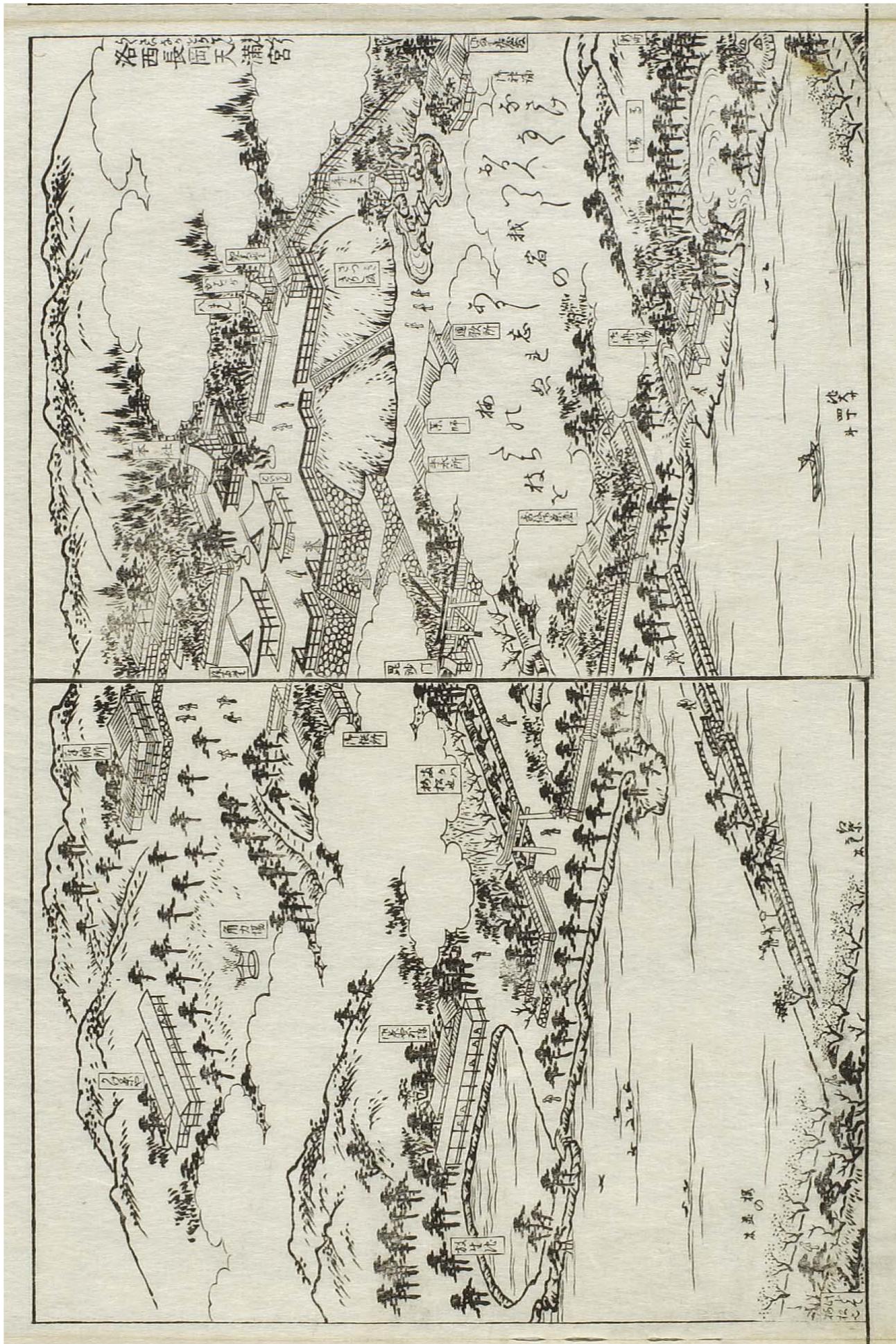


長岡天満宮

長岡や
田つれ
ふのれ
まに
ゆゑに
略の如し

西園寺



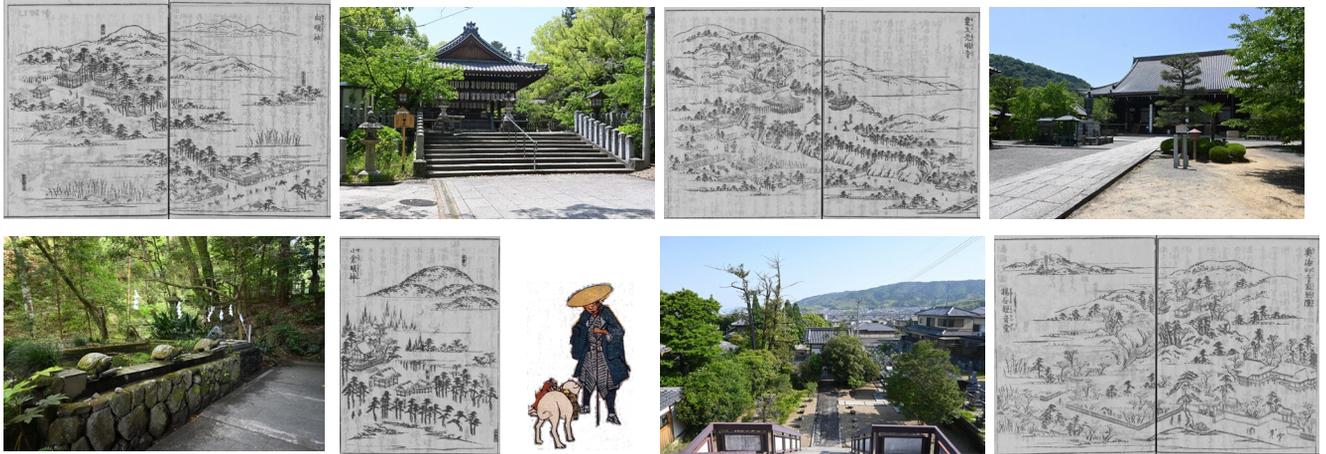
「浴西長岡天満宮」 国際日本文化研究センター蔵。平安京都名所図会データベースより転載。

長岡の変化

『翁草』 (神沢杜口・1791)

天明のはじめより、洛のもろ人、足をそらに爰へ群来て、須臾に繁華の地となる。…はじめは、池の砌に柿うる童、茶を売をのこふたりみたりのみ有之、池辺には、遊人の一組二組も見えぬれど、しくものなき苦屋にて、産も一二枚ならではなく…次のとしまうで見れば、かたへの汀、岡辺の尾崎に、京を欺く許の茶屋あまた出来、酒肴も心の欲するまゝに整ふ、人のむれくる事もこぞには似ざる賑ひなり。又のとしいきてみれば、宮造りくまなく終りて、其結構目もあやに、宛も紙細工の灯籠のごとし。又紅葉の頃思ひ立て、東寺の辺りに打出みれば、幕毛氈弁とう竹筒のたぐひ麗しくとゝのへ持せたる遊客…此長岡は日切りもなく、唯とこしなへに、よつの時共に賑ひて、都人の遊び所となれり。

■ 観光資源としての名所と長岡京市



『都名所図会』：国立国会図書館デジタルコレクションより転載、写真：2023年5月17日発表者撮影

MEMO

ご清聴ありがとうございました！

